

委員名	意見
A 委員	<p data-bbox="534 376 1040 409">プルトニウム混合燃料に関する意見</p> <p data-bbox="343 474 1404 909">島根原子力発電所が設置されて、30年余を経過した今日でも、島根県民の原子力発電所に対する感情は、今だに多くの人々が恐くて危険だと感じている。これは広島・長崎に投下された原子爆弾や、チェルノブイリの事故による悲惨な被害、加えて関西電力美浜原発3号機の事故を初め国内における原子力発電所で、次々に発生する事故によるものと考えられる。発生した事故の状況については、報道記事からしか知るよしもないが、いずれの事故も大枠で報道され、国民は不安感を煽られて、益々原子力発電所に対する不信感を増幅しているのが現状ではないかと考えられる。</p> <p data-bbox="343 927 1404 1317">このような厳しい現状の中、今回中国電力から島根原子力2号機でのプルサーマル計画導入について、事前了解申し入れがなされ、その可否について県民に問われており、私も代表の一人として「プルトニウム混合燃料に関する懇談会」に加わってきましたが、原子力に関しては全くの素人で、正しい判断ができるかどうか不安でした。しかし7回にわたる懇談会で、専門家の方々からいろいろ教えていただき、また、推進、反対の双方の立場から、県民代表の方々の意見も聞かせていただきました。</p> <p data-bbox="343 1335 1404 1568">正直なところ、原子力発電所そのものに対する不安感は払拭出来ない感じは残っているものの、県民代表の「中国電力の30数年に及ぶ努力により、地域に危険を及ぼす事故のなかった事実について評価するとともに信頼したい。」といった地元鹿島町住民の意見には動かされるものがありました。</p> <p data-bbox="343 1585 1404 1975">また、私はわたしなりにウラン燃料とMOX燃料の、危険性の差異を勉強した結果、大差はないのではないかと判断しました。安全対策についても、いろいろ説明がありましたが、専門的な知識がないので、その説明が正しいのか、誤っているのかは私にはわかりません。しかし慎重派・反対派の講師の方々指摘事項について、容認派・推進派等の講師の方々から、一応の説明がなされており、全幅とはいわれられないものの信じるに足る説明と判断しました。</p>

委員名	意見
A 委員	<p>必要性については、世界的な化石燃料資源の不足や、京都議定書に伴う地球温暖化対策、新たなエネルギーの未開発等から、エネルギー資源の有効利用、さらには中国によるプルトニウムの保有参加に伴う危険性等総合的に勘案して、やむを得ないのではと考えます。</p> <p>しかしながら、無条件に容認できるものではなく、徹底した安全対策と情報の公開、特に国民の持つ不安感、政府・企業のPR不足であり怠慢ともいえると考えます。「必要性・安全性」のPRは必要不可欠であり、プルサーマル計画が本当に国民から支持を受ける状況、環境づくりが大切で、本来その状況ができてからプルサーマルを行なうべきと考えます。</p>

委員名	意見
B 委員	<p>「安全協定第6条に基づく事前了解」については、当懇談会がこれを可とすることについて異論は無い。この判断にいたった理由は以下のとおりである。</p> <p>(1) 必要性について 原子燃料サイクルが2010年代の速やか段階で確立されることを前提として、プルサーマルは、安全上の十分な配慮がなされればウラン資源の有効利用及び安定した原子力発電による電力供給に寄与する。 バックエンド費用は算入されていないものの、プルサーマルによるコストの増嵩分は、供給総電力の発電費用に占める割合から企業努力により電気料金への影響はないとのことであり、経済的なリスクがあるとは考えにくい。</p> <p>(2) 安全性について MOX燃料を使った運転上の特性、MOX燃料の健全性、MOX及び使用済MOX燃料の取り扱い、事故への備えと対応など、いずれもより安全側への十分な配慮がなされている。 中国電力の技術能力、研修体制等について、一定の評価がある。</p> <p>(3) その他 7回の懇談会出席して、推進・容認と反対・慎重双方の見解・意見を拝聴、拝読してきた。前者については、最新の知見等によつての説明と受け止めることができたが、後者については、(失礼を省みずに言わせていただくと)恣意的な説明・発言との感を強くした。</p> <p>以下、要望事項について</p> <p>(1) 島根県に対して 「安全協定」一方の当事者の松江市との連携強化を図ること。 防災体制について周辺住民の安全確保のため不断の検証を行うなど原子力行政の強化を図ること。</p>

委員名	意見
B 委員	<p>(2) 国に対して 2号機でのプルサーマルの安全審査にあたっては、厳格な審査を実施すること。 プルサーマルは国の政策である以上、国民が正しい判断ができるよう責任を持って周知すること。</p> <p>(3) 中国電力に対して これまでも増して安全確保を最優先すること。 異常事象への対応（事象とその原因、改善等の方策と再発防止策）を速やかにし、住民の不安を惹起させないこと。</p>

委員名	意見
C 委員	<p>プルトニウム混合燃料に関して</p> <p>必要性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の多様な変化により、エネルギー消費量は増え続けている。一般人はエネルギーが不足するという事態の想定はしていないし過去にさかのぼって生活を変えることも難しい。常に十分な確保がされていてあたりまえに思っている。従って、そのような事態が起これば社会全体が混乱する。 ・今回の講演の中から、資源に乏しいわが国がエネルギーの確保のために外交的にも苦しい状況が多々あり、今後も厳しい状況が懸念されるていると感じた。 ・エネルギーの確保には、長い年月の準備段階が係り、対応が遅れると一時的にも社会全体に大きな影響が出る。 ・代替エネルギーの開発もされているが、需要を満たすには程遠く、将来的にも十分に供給できるとは思えない。 <p>安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なご講演を頂いたけれど、最初はどうもよく判らなかつた。回を重ねるうち、中国電力が安全性確保に対し、検討実施をされていることが認識できるようになった。 ・ウラン燃料の場合と混合燃料の場合も同じ炉が使用されるけれど、本当に安全性について余力があるのか不安に思っていた。しかし、割合について3段階に分けて実施されるということで、チェック機能が働くと考えられる。 ・高度な技術的・科学的な問題は私にはいくら考えても分からない。国・中国電力の専門家の方々の大きな判断にお任せするしかないとおもっているが、日本は被爆国で核については国民の目も厳しく、安全性への配慮が充分になされているように思われる。

委員名	意見
C委員	<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施については、国・中国電力・県それぞれの立場から、経済性に重きを置かないよう安全の確認に全力を挙げていただきたい。 ・中国電力には特に、人為的ミスを起こさないための努力に最善を尽くしていただきたい。 ・今回この会に参加し、当初は大変とまどったけれど、ここには書き尽くせないいい勉強をさせていただいた。多くの人に認識を新たにさせていただく機会が多いことが大切だと思う。

委員名	意見
D 委員	<p data-bbox="338 369 448 405">意見書</p> <p data-bbox="1070 421 1390 452" style="text-align: right;">平成 18 年 4 月 14 日</p> <p data-bbox="338 512 1406 600">7 回の懇談会に参加させて頂きました。私には、プルサーマルに反対する先生方の意見が体に入りました。</p> <p data-bbox="338 660 1406 848">なぜか？それは、実際に問題が発生しているからである。いくら、必要性・安全性を『大丈夫！！』と言われても、実際に大事故や小さな部品の外れた事故など明らかに原発が稼動しているために発生したリスクがあるからである。</p> <p data-bbox="338 909 1406 1149">ひとたび、大きな問題・事故が発生すれば、取り返しのつかないほどの被害が出る。それは想像が出来ないほどのものであると考える。その時、誰が守ってくれるのか？誰が弁償してくれるのか？自分に出来ないことは実行すべきでないと考える。あまりにもリスクの大きすぎる課題である。</p> <p data-bbox="375 1209 1262 1245">結論から言うと、私はプルサーマル計画に反対である。</p> <p data-bbox="347 1305 475 1341">(理由)</p> <p data-bbox="375 1357 1406 1444">必要性...中電はプルサーマルを導入することが、会社経営にいかに必要なか、本音で説明して欲しい。(財務リスク)</p> <p data-bbox="375 1460 1406 1547">必要性...国の施策の失敗(高速増殖炉でのプルサーマル計画の失敗)のしりぬぐいでは？</p> <p data-bbox="375 1563 1406 1650">必要性...余剰プルトニウムを持たないことと、六ヶ所村再処理工場でプルトニウムを生産することの矛盾をどう説明する？</p> <p data-bbox="375 1666 1406 1798">必要性...高レベル放射性廃棄物の低減の為にプルサーマルをするのか？それによって出る低レベル放射性廃棄物は15倍とも言われているのに。</p> <p data-bbox="375 1814 1406 1901">必要性...リサイクルの前に、リデュースであろう。使わなければ問題は発生しないはず。</p>

委員名	意見
D 委員	<p>安全性... 取り返しのつかない、予想できないリスクが発生した時、対応できない。(シュミレーション以上の事が発生したら、ギブ・アップ?)</p> <p>安全性... 2号機で3月に小規模ながらトラブル発生。その炉で、設計時と異なる燃料を使用することの不安。</p> <p>安全性... 核のリサイクルと称して、核のゴミが増える。危険性が増す。</p> <p>安全性... 政府が保護を手厚くしていくのは、それだけリスクが大きいからである。</p> <p>今まで以上にもっと手厚くなるかも・・・しかしずっと続くか?</p> <p>『原子力介護プラン』と言われる物。</p> <p>自由主義改革により、民間に自己決定・自己責任を負わせる。 “もし 失敗した時、自己責任でやればいい”</p> <p style="text-align: center;">a</p> <p style="text-align: center;">結果・・・会社がつぶれる</p> <p style="text-align: center;">a</p> <p>* 廃棄物の処理、頓挫。</p> <p>* 住民・自治体の責任は?</p> <p>安全性... 放射性廃棄物の最終処分場が決まらないうちからの見切り発車。</p>

委員名	意見
E 委員	<p data-bbox="411 371 520 405">意見書</p> <p data-bbox="352 472 655 506">【必要性に関して】</p> <p data-bbox="344 521 1410 656">(1) 今後のエネルギー必要量予測、新エネルギーの伸び予測を見ると、必要エネルギー安定供給のために、原子力発電を抜きには考えにくいと思われる。</p> <p data-bbox="344 674 1410 808">(2) 原子力発電において、従来のウラン利用型に比べてプルサーマルでは、ウラン資源節減、国際協約遵守、高レベル放射性廃棄物量の減少などの改善効果が期待できる。</p> <p data-bbox="352 871 655 904">【経済性について】</p> <p data-bbox="344 920 1410 1055">プルサーマル化の問題点として挙げられていた経済性については、事業者の経営努力により電力料金への影響は、ほとんどないということが確認できた。</p> <p data-bbox="352 1120 655 1153">【安全性に関して】</p> <p data-bbox="344 1169 1410 1303">(1) プルサーマル化は、想定される範囲内では、設計面での配慮、厳格な審査、厳密な操業管理によって、ウラン利用型とほぼ同等の安全性は確保できると思われる。</p> <p data-bbox="344 1321 1410 1456">(2) プルサーマルが、従来のウラン利用型に比べてリスクが特別に増すわけではないにしても、原子力、プルサーマルについても県民の不安感が存在することは否定できない。</p> <p data-bbox="344 1473 1410 1608">(3) 県民の意見をどのように捉えるかはむづかしいことであるが、懇談会として正規の手順を踏んで、県民の代表として出して頂いたものを対象とすれば、</p> <p data-bbox="379 1626 1374 1659">() プルサーマル導入反対の根拠として表明されたもののうち、配慮が必要な意見としては、</p> <ul data-bbox="459 1727 1102 1861" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="459 1727 735 1760">・「万が一」の問題 <li data-bbox="459 1778 1102 1812">・大量輸送、大量移送に伴う問題の対処 <li data-bbox="459 1830 810 1863">・核に対する市民感情 <p data-bbox="411 1879 647 1912">などがあった。</p>

委員名	意見
E 委員	<p>()一方、容認する側も容認のための前提条件として安全運転,情報開示、発電所との信頼関係絶対安全とは言えないので、リスクを幾重にも検討して備えるべきなどを挙げている。 これらについての十分な配慮が必要である。</p> <p>【結論】 必要性の面からプルサーマル導入は否定できないが、以下の項目を重視することが必要と思われる。</p> <p>(1) 設備、操業面での保安院の厳正なチェック (2) 事業者のリスク対応についての一層の管理強化 (多重防御についてのハード、ソフト,人間管理面強化、想定できないことについても柔軟に対応できるマニュアル作りなど) (3) 発電所外の安全対策強化 (4) 情報公開、信頼関係の強化 (行政、事業者とも) など。</p> <p>さらに</p> <p>(5) エネルギー選択肢の拡大の課題は、プルサーマル化だけで十分に担保できるわけではないので、自然エネルギー利用の拡大に電力事業者も十分に配慮することも付け加えたい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

委員名	意見
F 委員	<p>懇談会に諮問のあった、ウランプルトニウム混合酸化物燃料の使用について、これまで、その必要性、安全性等について調査、議論をしてまいりましたが、私としての意見を纏めましたので報告いたします。</p> <p>(結論)</p> <p>島根原子力発電所 2 号機でのプルサーマル計画について、事前了解をすべきである。</p> <p>(理由)</p> <p>必要性</p> <p>わが国には、石油、石炭、天然ガスなど、エネルギー資源が少ない、エネルギー自給率は、主要先進国の中でも最も低い僅か 4 % と言われている中で、使用済燃料の再利用は、エネルギー資源の有効活用と言う視点から、当然取り組まなければならない。また、環境面からしても、京都議定書に基づく、地球温暖化防止対策推進の面からも、有効である。また、プルトニウムの平和利用という国際的役割を果たす必要がある。</p> <p>安全性</p> <p>安全性の問題としては、この計画が、基本的には、内閣府の原子力委員会が定める、原子力政策大綱に沿った計画である事、また、これまで、原子力安全委員会で十分検討され、同委員会が定めた各種指針等により、安全審査が実施されることとなっている。</p> <p>また、中国電力や国をはじめとする関係機関の専門家や学識経験者の方々から説明を聞く限り、いずれも安全性に問題がない事を確認出来た。また、日本原燃株式会社の核燃料サイクル施設と日本原子力研究開発機構東海研究開発センター核燃料サイクル工学研究所を視察し、それぞれの施設の専門技術者から説明を受けたが、施設の構造の安全性や、処理作業過程における安全性については、二重三重の安全対策が取られており、安全性には問題がないと判断した。</p>

委員名	意見
F 委員	<p>配慮すべき事項</p> <p>プルサーマル計画を導入するにあたっては、少なくとも次の事項について充分配慮されたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、廃棄物の最終処分については、先送りしないで、早急に検討されるべきである。 2、新エネルギーの開発については、官民一体となったの取り組みが必要である。 3、作業操作上のトラブルが発生しないよう、今以上の作業員の徹底した研修、訓練を実施されたい。 4、住民に、不信感、不安感を与えないよう、徹底した情報公開と説明責任を果たしてもらいたい。また、地域と共生した発電所であるべきであり、地域の産業振興や、観光振興、また、地域コミュニティの醸成等について、国、県、松江市、中国電力が協調して、対応されたい。その事が地元住民の原子力政策に対する信頼感に繋がる。 5、鹿島町からの防災避難道路は、県道恵曇線の1路線しかなく、平常時でも朝夕渋滞している現状にある。古浦地区から西長江町への防災避難道路の計画があるが、早急に建設し、万全の防災対策を確立すべきである。

委員名	意見
G 委員	<p data-bbox="344 376 1286 412">中国電力鹿島原発 2 号機 プルサーマル計画について</p> <p data-bbox="344 477 1410 1518"> 現在計画中のプルサーマル計画について、私なりの意見を述べさせていただきます。懇談会で今まで様々な検討・検証、そして視察を行って参りました。私はそこで感じたことは、現在のエネルギー問題が議論のポイントだと思います。現在、我々の生活にとって、電気・ガソリン等エネルギー資源対して、何の問題なしに使える生活をしています。しかし、ガソリンはよく枯渇の事は知られていますが、電気の元であるウランまでもが、あと数十年で底をつく現状を多くの国民が知っているのでしょうか。もちろん国のエネルギー対策では様々な検討がなされているとは思いますが全くといっていいほど、情報は一方的です。そして、電力会社に一方的に今後の対策を自分たちで考えなさいと言わんばかりです。私は、次の新エネルギーが開発される事が急務と思いますが、今限られた資源をどのようにするかどうかを考えることが先決だと思います。したがって限られた資源の有効活用に全力を投球せざる終えない状況であると思います。しかし、この計画を導入するにおいて、絶対条件として安全確保は必須です。視察でも感じましたが、六ヶ所村・東海村の両施設では、最新の設備で徹底した安全管理で、過去の事故を教訓にされた安全管理システムが確立されていきました。かえって電力会社の原発施設よりも安全ではないかと思うほどでした。このように電力会社の原発においても同様な管理をして頂き、計画導入をして欲しいと思っています。 </p> <p data-bbox="344 1585 1410 1821"> 今の日本政府の対応は、プルサーマル計画を受け入れた自治体には交付金を支給するという形をとっています。私は「お金を出すから何とかならないか」というような感じを受けます。もっと日本政府としても、様々な支援体制で支援する必要があると思います。 </p>

委員名	意見
G委員	<p>また計画を受け入れる条件としては、松江市民へのPRが必要だと思えます。おそらくこの計画導入に興味がある方は、極めて少ない数ではないでしょうか？日本政府・島根県・松江市・電力会社が一体となり、市民に対して理解に努力すべきだと思えます。実際、六ヶ所村・東海村も地元では了解されて、友好的な関係にあると聞いています。時間をかけてゆっくりと理解してもらう事が、必要不可欠だと思えます。</p> <p>最後に、徹底した安全管理の下で広く市民に受け入れて頂く事が出来れば、私はこの導入には基本的には賛同します。</p>

委員名	意見
H委員	<p>島根原子力発電におけるウラン・プルトニウム混合酸化物燃料使用に対する意見書メモ</p> <p>1、判断に至る経過と結論</p> <p>平成17年11月から平成18年3月まで7回の検討学習会、中電の説明会、県民の声を聞く会の主張、青森県六ヶ所村の再処理工場その他と東海のMOX燃料工場の現地視察、我々のまとめた検討項目、吉川、岡両参与の説明等（賛否両論の主張）を集約し、尚内閣府の原子力委員会のまとめた、原子力政策大綱と対比し、総合的に判断した結果、安全性を前提にOKの結論に至った。</p> <p>決して100%OKでなく、プルトニウムの取扱い、MOX燃料の工程再処理、高レベル放射性廃棄物の処理等に不安は残った。従って判断項目の3項目はOKで2項目は中立となった苦衷の結論である。</p> <p>2、結論に至る点で原子力政策大綱の信頼性は高く重いものであった。</p> <p>日本を代表する識者32人、延100時間以上、1年4ヶ月、議論した結果の結論（反対識者も参加）は、日本原子力指針であると受けとめた。</p> <p>ポイント</p> <p>安全確保のための活動を最優先する</p> <p>「人は誤り、機械は故障する」を前提に多重防護を用意する</p> <p>最新の知見を踏まえた科学的かつ合理的な安全規則</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

委員名	意見		
H委員	判断資料として		
	検討項目	×	理由として
	必要性		<p>電力の安定提供 エネルギーの海外依存の改善 資源の有効利用 くらしの向上、産業の発展</p>
	安全性		<p>賛否両論の主張、中電の説明、県民の声の主張、視察研修、本会の要検討のまとめ、吉川・岡参与説明と原子力政策大綱等を中心としての結論は安全性を前提にOKに至った。</p>
	経済性		<p>リサイクルに依りコスト高はあるが、電力の必要性から止むを得ないと判断し、企業努力に依って住民負担が増加しないように要望する。</p>
	信頼性		<p>現時点では原子力発電所は国民合意形成は大変厳しいと見える。理由はトラブルや故障、事故への対応、金沢地裁判決等があり、プルサーマルに対しても厳しいと見える。</p>
	地域振興対策について		<p>電源三法の活用拡大強化。島根県は少子高齢化が進み経済力が弱く活力が無くなるイメージが進行している（人口の減）。</p> <p>電源三法の活用等で産業の振興で若者が松江市に定着し、活力のある島根県松江市に発展するよう強く望みます。（現状は松江市も鹿島町も人口の減である。）</p>

委員名	意見
委員	<p>これまでの検討を踏まえ、以下についての私の意見を述べる。</p> <p>1．必要性について</p> <p>中国電力ならびに国がいうところのプルサーマルの必要性については、基本的に理解できる内容であると思う。</p> <p>エネルギー資源の乏しい我が国が社会・経済を維持していくためには、何らかの形でエネルギーならびにその前提となるエネルギー資源を確保していかなければならない。</p> <p>我が国のエネルギー自給率は、わずかに4%程度に過ぎないと言われている。従ってエネルギー資源の大半は海外からの輸入であり、有限な化石燃料は、遠からず枯渇する恐れがあるとも言われている。</p> <p>また、今後の世界のエネルギー需要は中国やインドなどアジア地域を中心とした経済成長によって大幅な増大が予想されており、我が国のエネルギー政策としても、エネルギー資源の安定確保は重要な位置付けになっている。</p> <p>この点でウランは再処理することによって自前のエネルギー資源として使えることが大きな特徴とも言え、再処理およびプルサーマルを国策として位置付けている一番の理由ではなからうかと思う。</p> <p>さらに、発電に伴って二酸化炭素を排出しない原子力発電の推進が地球温暖化防止対策の柱の一つになっていることの意味も大きいと思う。</p> <p>そして、利用目的のない余剰なプルトニウムを持たないという我が国の国際公約を果たし、平和利用の透明性を示すためにも、プルサーマルは現実的に有効な方法の一つであることは講師の先生方の話で理解できた。</p> <p>再処理して、高レベル放射性廃棄物を再利用できる資源と分離して処理することにより、量的にも放射能レベル的にも直接処分してしまう場合と比べて有利になることを確認した。</p>

委員名	意見
委員	<p>一方、高レベル放射性廃棄物の最終処分の方針が出されているが、処分地が未定であることは今後の問題点として残っているので早急な解決が望まれる。</p> <p>視察調査した六ヶ所施設において「使用済燃料の受入容量3000トンに対し現在1729トン収容済みであり、プルサーマルをやらなければ、いずれ容量が一杯になり、再処理を断念すれば全国原発を止める恐れがある」との説明を受けたことは気がかかる。</p> <p>使用済みMOXの再処理について実績はあり、技術的には出来るが、来年の本格運転開始を見込まれている六ヶ所再処理工場の状況や、高速増殖炉等の開発状況も加味して決定されると推定され、検討が始まった段階であり、必ずしも十分な見通しがないことも事実である。</p> <p>2．経済性について</p> <p>経済性については、プルサーマルを実施する場合、「燃料の加工コストが多少は割高になる」とのことであったが、これにより、電気料金が高くなるのかと言えば、電力会社の経営努力で吸収できる程度のものとの回答を得た。</p> <p>3．安全性について</p> <p>原子力発電では、ウランが核分裂して熱を出しているが、新たに生まれたプルトニウムも核分裂して熱を出して発電の3割に使われている事や、いまでも既にプルトニウムを自然な形で利用しているので、特性も把握されていると説明を受けた。プルサーマルでは、再処理により取り出したプルトニウムを使って、最初からウランに少し混ぜて新たな燃料に加工するところが違うだけとのことである。</p> <p>運転方法や設備の変更、出力の増加、温排水への影響などを伴わないことも会社や講師の先生からの話で確認することができた。</p>

委員名	意見
委員	<p>またMOX燃料の健全性の評価をめぐっては、これまでの懇談会の講師の中でも、一方では「現状の設備・運転方法を変更することなくMOX燃料を利用できる」との肯定的な意見がある一方、「燃料が破損する可能性がある」「制御棒の効きが悪くなる」「燃料の燃え方にムラが出る」といった意見があり、専門家の間でも評価・見解が分かれ、私達には判断のしにくいテーマではあるが、国および参与の見解、視察調査の結果なども総合的に判断すれば問題なく、使用することは可能であると思われる。</p> <p>安全性については、県民として最も重視すべきことであり、実施にあたっては、事業者のみならず、今後、国が責任を持って厳正な安全審査を実施し、燃料製造過程を含め確実な規制・チェックをすることで担保すべきものであると考える。</p> <p>4．信頼性について</p> <p>海外では、プルサーマルを普通のウラン燃料と何の違いもなく実施しているとのことである。1960年代からドイツ、フランスなどでプルサーマルが実施され、現在も継続されていると聞く。40年以上にわたって、プルトニウムを利用してきた海外の実績は、評価できると思う。</p> <p>プルサーマルを実施する事業者への信頼性では、島根原子力は1号機と2号機が、小さなトラブルはあったものの、大きな事故もなく安全に運転を続けてきた運転実績と地域に対する対応姿勢は、地元住民からの意見にもあったように評価できると思う。</p> <p>しかし、定期検査中のこととはいえ、プルサーマルを計画している2号機で不具合事象が続いたことは遺憾であった。</p>

委員名	意見
委員	<p>これまで中国電力は、トラブル情報をはじめ情報公開に努め、また対話を大切にした活動も通じて地域の信頼を築いてきた。やはり物事を判断する際の重要な要件は、信頼であると思う。今後も地域との信頼関係を大切に真摯な事業活動で安全運転を継続し、信頼に応えていく事を望みたい。</p> <p>(まとめ)</p> <p>MOX燃料を使用することによって、従来のウラン燃料より特別リスクが増えると言う訳ではないとしても、今回のプルサーマルについては住民の間に不安感が存在することは否めない事実である。</p> <p>国及び事業者は今後もこの不安感の解決に努め、実施にあたっては様々なリスクコミュニケーションを図りながら、国と事業者が安全について責任をしっかりと果たしてゆくことを前提に、島根原子力2号機でのウラン・プルトニウム混合燃料の使用計画については、了解したい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

委員名	意見
J 委員	<p data-bbox="427 371 1193 461">「懇談会」への出席が少なく申し訳ありません。 若干の意見を述べます。</p> <p data-bbox="347 521 922 555">1．プルサーマルの必要性について</p> <p data-bbox="379 573 1410 808">専門家、関係者の説明、資料により概要はかなり理解出来た。地球温暖化防止、エネルギーの安定供給、資源再利用等で原子力発電は現状では有効と認められるが、プルサーマルについて技術的、又、経済的に不安があるとの指摘に対して一定の対応策が示されており、プルサーマルを否定する理由は乏しい。</p> <p data-bbox="347 871 922 904">1．プルサーマルの安全性について</p> <p data-bbox="379 922 1410 1158">MOX燃料使用の運転上の特性について、ウラン燃料使用と大差なしの説明は、全く同じでないことを認めており適切な対策運用の必要が示されている。このことの安全な対策、運用の確保が重要である。MOX燃料の健全性等を含め安全性をどう担保することができるのか。</p> <p data-bbox="347 1220 1031 1254">1．中国電力のプルサーマル計画について</p> <p data-bbox="379 1272 1410 1361">技術的にハイレベルの専門分野の問題であり、素人には荷の重い課題である。</p> <p data-bbox="379 1379 1410 1507">意見としては、安全性を確保、担保することが「安心」へとつながることから「国が全面的に責任を持つこと」を前提にしてプルサーマル計画について判断すべきである。</p> <p data-bbox="379 1525 1155 1559">前提を充たせば計画を了としてよいではないか。</p> <p data-bbox="1219 1576 1289 1610">以上</p>

委員名	意見
K 委員	<p data-bbox="344 376 1406 454">島根原子力発電所 2 号機におけるウラン、プルトニウム混合酸化物燃料の使用についての意見</p> <p data-bbox="344 517 1406 752">エネルギー自給率が 4 %（大半は水力）で、エネルギー資源の 96 % を輸入に依存しています。ウラン資源も有限であります。資源がない日本は使用済み燃料に含まれるウラン、プルトニウムを再利用して安定したエネルギーの確保のため、プルサーマルの必要性を条件つきで認めることにいたしました。</p> <p data-bbox="344 770 1406 1055">核燃料サイクルのバックエンドはまだ不確実だと思います。使用済み MOX 燃料の処分方法は、2010 年ごろから検討が始まるということでまだ決まっていません。ウランの使用済み燃料より冷却の困難さや、再処理の困難さが大きいように感じます。また再処理によって出る、高レベル放射性廃棄物の処分地も決まっていません。</p> <p data-bbox="344 1072 1406 1106">これらの課題を解決していただきたいと、国に要望いたします。</p> <p data-bbox="344 1124 1406 1359">プルサーマルと並行して再生可能なエネルギーの研究開発に力をいれていただきたいと思います。エネルギー効率の低い集中型発電所の供給システムの再検討を行い、太陽光、風力、地熱のエネルギーを有効利用し、小規模分散型発電を地域に導入すべきだと思います。</p> <p data-bbox="344 1422 1406 1706">安全性については、中国電力さんの安全確保の技術、教育、情報公開の姿勢に信頼を持つことができました。しかしながら、関西電力では、燃料の検査データのねつ造や、東京電力は、原発のトラブル隠しで、プルサーマル計画は白紙になっています。プルサーマルの必要を認めながらも不安は残ります。電気事業者は、理解と信頼を得るための更なる努力が不可欠だと感じました。</p> <p data-bbox="344 1769 1406 1906">テロ、自然災害（地震）、MOX 燃料輸送に対する危機管理の徹底をお願いします。原子力防災体制、万一の時の危機をどう管理するのか、安心のために一層の危機管理体制の強化を望みます。</p>

委員名	意見
K 委員	<p>全量再処理路線が選定されましたが、 私は、できることなら、全量再処理でなく、使用済み燃料をいったん保管し、将来再処理するか、ワンスルーも含めて処理方法を選べるようにしたほうがいい。というシナリオ4が良いと思いました。そして、私達はライフスタイルの見直しが急務であると感じました。</p>

委員名	意見
L 委員	<p style="text-align: center;"><u>MOX燃料に関する懇談会、メモ</u></p> <p>1．現在の私見</p> <p>原子力発電所が存在し、現在のところ、日本の電力供給に欠かせないものであるということは確かです。しかし同時に毒性の高いものであることも事実です。</p> <p>ともあれ、MOX燃料を島根2号機で使用するという課題のなかで、私個人は当初、全く白紙の状態での懇談会に委員として参加しました。</p> <p>政治的日程もあり、結論を急ぐ理由があるようではあります。現時点（4月18日）において、私個人としては、懇談会の委員として容認するとかしないとかについて、公言できません。なぜなら、当該2号機の部品トラブルの原因究明と改善方針がでていないことで、懇談会委員として「安全性を保障できるであろう」と言えないからです。2・3週間うちに国からの判断もできるようですから、容認するとかしないかの判断を行うのは、その後にはできないと思います。例えば、老朽化ゆえの設備改善が必要で、それをMOX燃料使用のための交付金等でまかなう、等であるのならば、その意味での安全性は増すわけですが、現在のところ情報が全く出ていません。</p> <p>2．現在の懸念</p> <p style="padding-left: 2em;">高コスト化による安全性への懸念</p> <p>MOX燃料を容認したとしても、それが来年の電力自由化を控え、中国電力を一層の高コスト体質に追いやるものでないことを希望しています。本来、全量再処理を選ぶかどうかは、電力自由化の中で企業や住民に選択肢があるべきことだと考えています。</p> <p>現在、税制上でも交際接待費が経費に計上されなくなっています。一般的に企業において過去の経営方針が問い直されています。</p> <p>これらのことはすなわち、企業に対しての住民や行政の利益</p>

委員名	意見
L 委員	<p>還元要求も変化しなくてはならないという事態を意味しています。しかし、そのような変化に行政や住民が対応できているかという疑問です。そうであれば、必然的に企業は安全性にかかる経費の削減をしなくてはならなくなるでしょう。</p> <p>高コスト体質に追い込むと言うことは、具体的には、部品の交換時期の延長や人員削減につながるということです。国の制度で安全が保障されているといわれても、制度自体は業界圧力がかかる政治的判断で左右されますから、その点の不安が解消されるわけではありません。</p> <p>技術者の不足</p> <p>いたし方のないことではありますが、高レベル放射性廃棄物が未来においてその不備が解消されるかどうかと言うと、保証はありません。技術者の育成は急務です。東海村・六ヶ所村で皆さん、技術者養成は「これから」だと言われました。</p> <p>安全性を確保するために一々広報のしかたを変えてください。</p> <p>今回、原子力行政に触れて、その広報方針に疑問が残りました。原子力はいわば自転車操業の状態で行われてきています。高レベルの放射能が安全なものでないことは、みんなが知っています。</p> <p>東海村・六ヶ所村と視察をし、日本の先端技術が優れていることは分かりました。一旦は、これなら安心かなと思いましたが、逆に不安が募った部分があります。それは、広報の仕方でした。</p> <p>素晴らしく誇りをもっておられることはわかるのですが、死亡事故があって3年間工場がストップしたと言うようなことは一切言われたい。結局MOX燃料の技術はフランスからの輸入だそうですが、それほど優れた日本の技術だけで何故出来ないのか。言わないよりは言って、そのためにどのような改善がなされたか、だから安心かということを実際に話し合うことが必要なのです。そうして初めてお互いに真の信頼関係ができてきま</p>

委員名	意見
L 委員	<p>す。</p> <p>本来、原子力関係の技術者であることは、誇りにこそすれ、恥じることでは有りません。しかし、ある技術者の人は「原子力関係の研究者であること」が他人に公言できないと苦渋を述べられました。</p> <p>工場の現場の作業精度は、基礎理論では作られません。仕事への誇り、モチベーション、顔が見える住民との間で培われる真の信頼関係のなかでできると思います。六ヶ所村のなかでフランス人技術者だけがどうしてあんなに生き生きとしているのでしょうか。彼らは仕事に誇りを持っているからだと思います。どうしてフランスの工場だけデータの改ざんがないのでしょうか。それらは上記にあると思います。</p> <p>ITERの開発がフランスに行き、日本が請け負えなかったこと、それらはすべてこのような環境に由来するものではないでしょうか。</p> <p>核燃料サイクルの不備や未来のエネルギーを研究すること、それらは私たちの将来を左右する問題ですが、いま高校生や幼稚園のこどもたちがいかなる研究者に成長するかがその鍵を握ります。彼らに「原子力技術者になるのはすばらしい」と親が心のそこから言える広報が出来ているのでしょうか。いま、行政も企業も「プルトニウムは危険だけれどそれを真摯に扱います」「設備も変えて整えます」と広報していません。それらの信頼関係を構築するシステムを具体的に作ること、手法や実施時期を明確にすること、3号機の調査委員会で提案されたことを実施すること、それが将来のMOX燃料容認の条件のひとつだと考えます。</p>